



ortho remote for MMP1 設定ガイド

Version 1.0



Image Courtesy of teenage engineering

目次

1. はじめに.....	3
2. ortho remote で制御可能なパラメーター.....	3
3. 使用機材およびソフトウェア	4
4. 設定の手順	4
4-1. MMP1 Controller のアップデート	4
4-2. SysEx Librarian のダウンロードとインストール.....	4
4-3. ortho remote 設定ファイルのダウンロード	6
4-4. ortho remote の動作設定	6
4-5. iPad と ortho remote のペアリング.....	13
注意: ortho remote のペアリングがうまくいかない場合	16
5. 参考: MIDI コマンドリスト	20

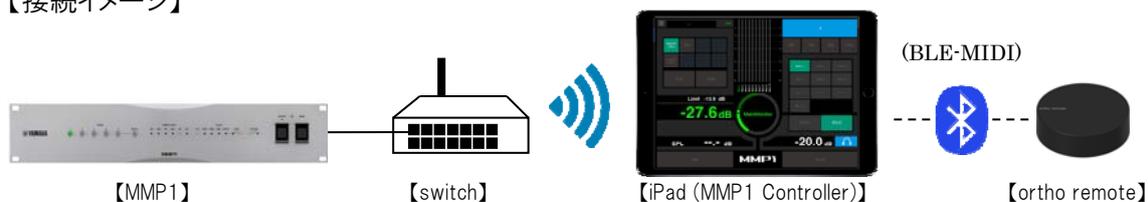
当ドキュメントに掲載されているヤマハの商品の名称等はヤマハの商標または登録商標です。

その他、本サイトに記載されている商品・ソフトウェア・サービス名等は各社の商標または登録商標です。

1. はじめに

このガイドでは、ヤマハのMMP1 Controller のBLE MIDIコントローラーとして、teenage engineering 社の ortho remote を iPad を経由して使用する際の設定方法について解説します。

【接続イメージ】



2. ortho remote で制御可能なパラメーター

ortho remote から操作可能な MMP1 のパラメーターは以下の通りです。

- ・モニターレベル
ノブを回転させる
- ・ミュート/DIM/リファレンスレベル/オールミュートモード
プッシュ操作

ortho remote のノブを回すことで制御可能なのはモニターレベルのみですが、プッシュボタンは4つのうちいずれか1つのパラメーターがアサイン可能です。目的の機能に応じて上記の機能からいずれか1つのみを選択します。

3. 使用機材およびソフトウェア

使用する機材、ソフトウェアは以下の通りです。

1. ortho remote
2. OSX 10.13.3 (BLE-MIDI が動作する 10.10 以降であれば可)がインストールされた Mac
3. SysEx Librarian v1.3.1 (MIDI デバイス通信ソフトウェア)
4. MMP1 Controller v1.1.0 をインストールした Apple iPad(iOS10 以降)

4. 設定の手順

設定の手順は以下の通りです。

1. MMP1 Controller のアップデート
2. SysEx Librarian のダウンロードとインストール
3. 設定ファイルのダウンロード
4. ortho remote の動作設定
5. iPad と ortho remote のペアリング

4-1. MMP1 Controller のアップデート

ortho remote を使用するためには MMP1 Controller を v1.1.0 以上にアップデートする必要があります。古いバージョンを使用している場合には Apple の App Store からダウンロードしインストールしてください。

4-2. SysEx Librarian のダウンロードとインストール

今回の例では、MMP1 Controller を操作するための設定コマンドを Mac から ortho remote に送信するために SysEx Librarian というフリーウェアを使用します。SysEx Librarian は以下のサイトからダウンロードできます。

Snoize: SysEx Librarian

<https://www.snoize.com/SysExLibrarian/>



SysEx Librarian is an app to let your Mac communicate with MIDI devices using System Exclusive messages, also known as SysEx, from synthesizers, although there are others (such as sending firmware updates).

It's easy to keep a library of the SysEx files you use most often, and to record new SysEx files.

SysEx Librarian is free to download and use. The [source code](#) is available as Open Source, under the BSD license.

System Requirements

- Mac OS X 10.7 or later
- MIDI hardware interface with Mac OS X driver

【Snoize ウェブサイト】

ダウンロードした zip ファイルを展開すると、実行可能なプログラムが作成されます。



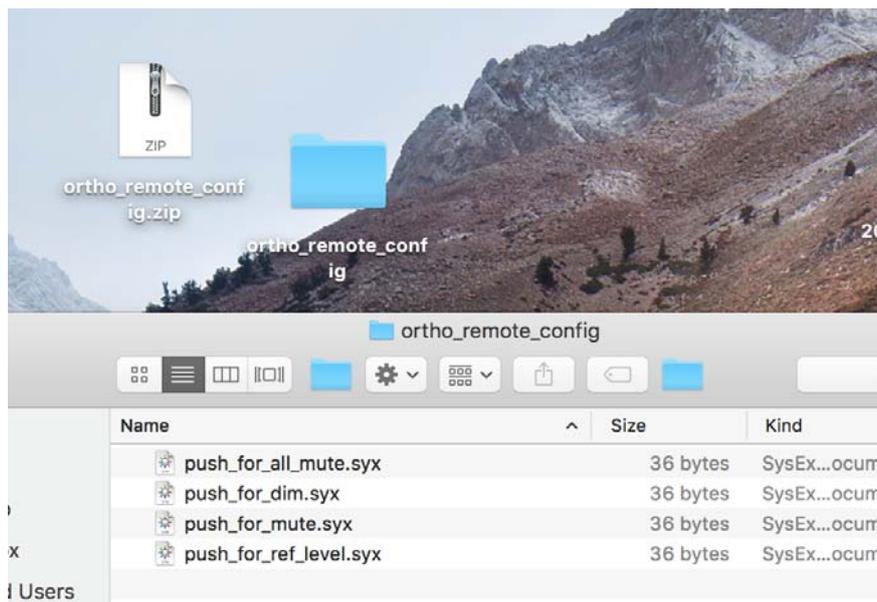
【SysEx Librarian】

4-3. ortho remote 設定ファイルのダウンロード

次に設定ファイルをダウンロードし展開します。設定ファイルは以下からダウンロードできます。

Yamaha MMP1 ダウンロードページ

<http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/products/processors/mmp1/downloads.jsp>



【ortho remote 設定ファイル】

4-4. ortho remote の動作設定

Mac から ortho remote にデータ送信可能とするため、両機の Bluetooth のペアリングをします。「アプリケーション」フォルダ内の「ユーティリティ」の中にある Audio MIDI 設定を起動します。



【ユーティリティ Audio MIDI 設定】

ウインドウメニューから「MIDI スタジオを表示」をクリックし、MIDI スタジオを開きます。



【MIDI スタジオ】

Bluetooth アイコンをダブルクリックすると構成画面が現れ、デバイスが検出可能となります。



【Bluetooth 構成】

ここで ortho remote 背面のペアリングボタンを、LED が青色に点滅するまで約 3 秒間押し続けます。



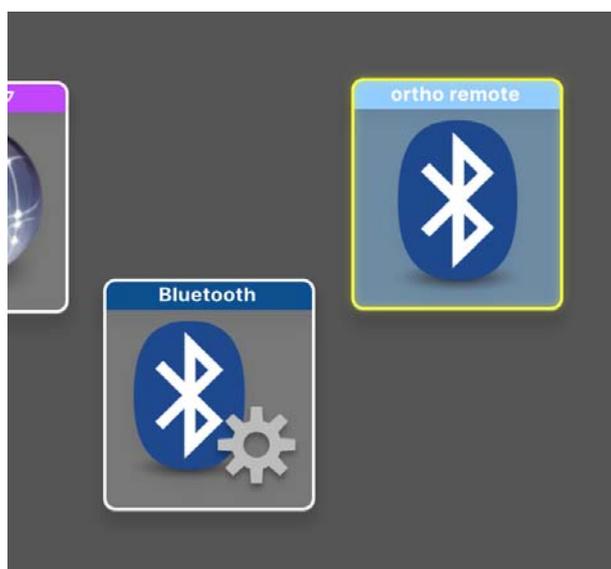
【ortho remote ペアリングボタンとLED(背面)】

ortho remote が検出されると構成画面に表示されますので、「接続」ボタンを押してペアリングします。



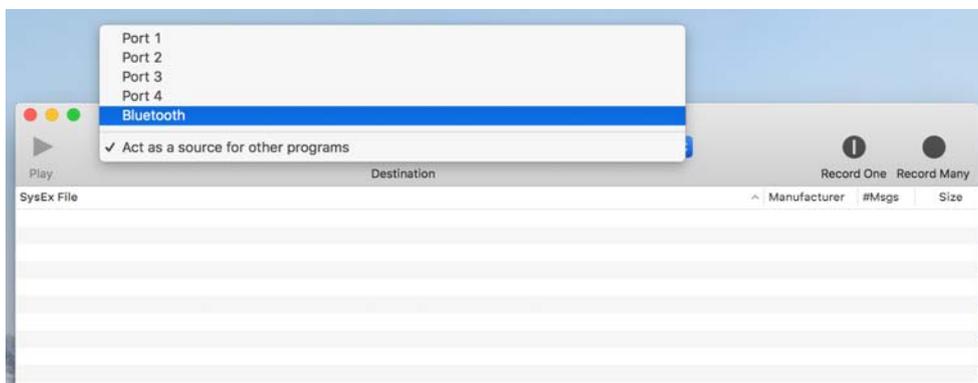
【Bluetooth 構成】

ペアリングが成功するとMIDIスタジオに「ortho remote」というデバイスが表示されます。



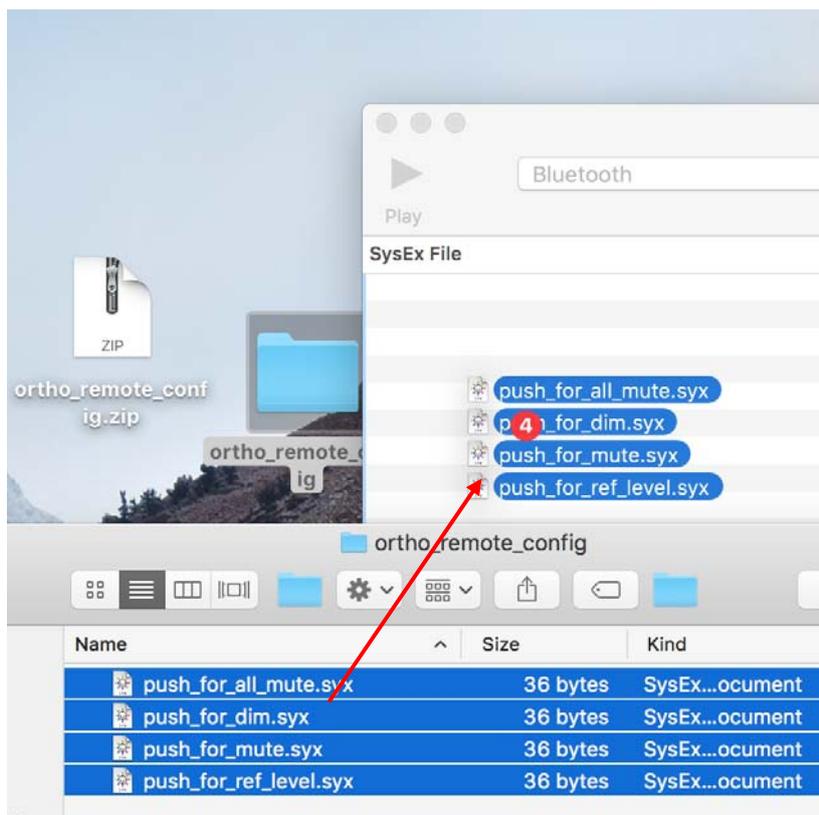
【ortho remote とのペアリング成功】

先にダウンロードした SysEx Librarian のアイコンを開き、「Destination」に「Bluetooth」を選択します。



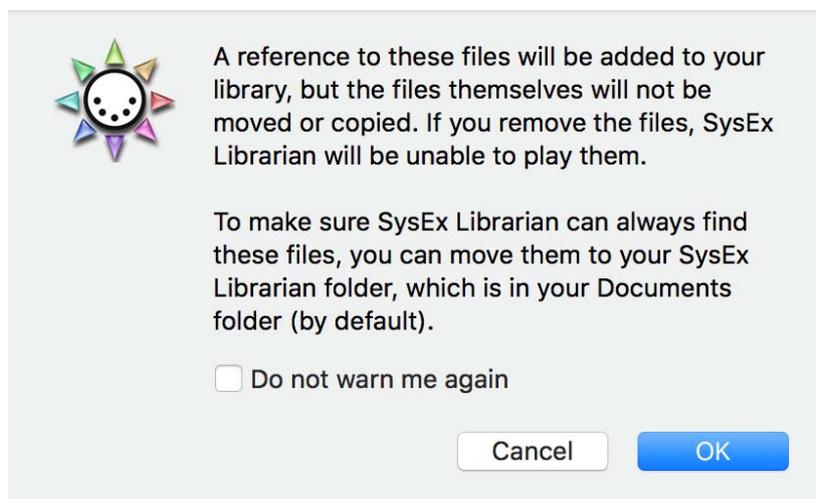
【SysEx Librarian Destination 選択】

次に設定ファイルを SysEx Librarian に読み込ませます。設定ファイルをドラッグドロップするか、Fileメニューから「Add to Library…」を選び、設定ファイルを選択します。

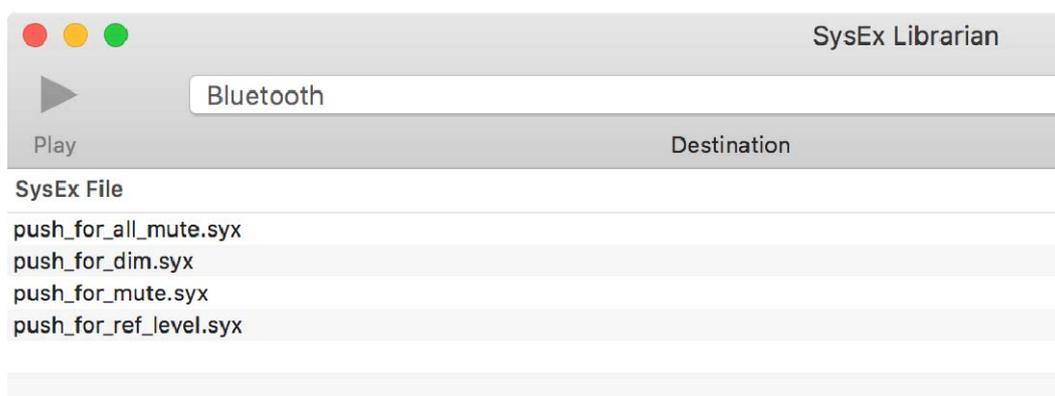


【設定ファイルの読み込み】

確認のダイアログが表示されますが、そのまま「OK」を押して読み込ませてください。

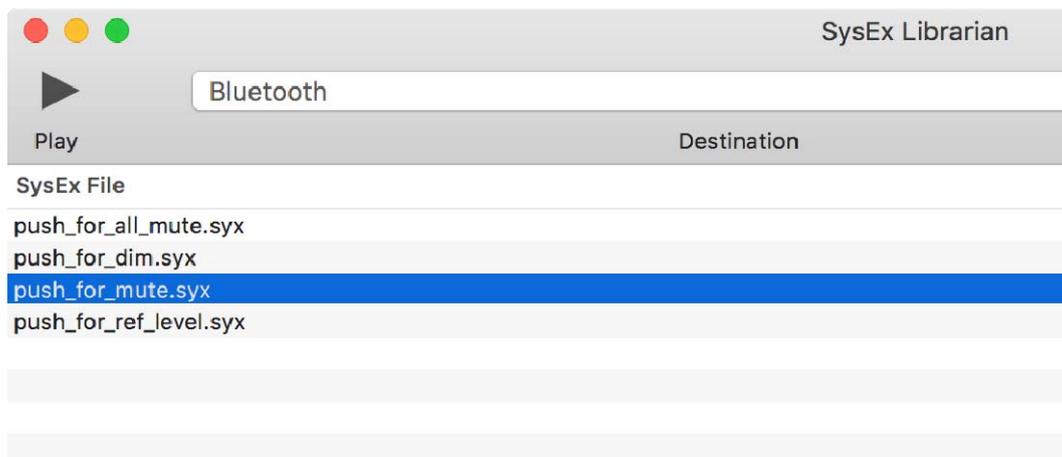


【SysEx Librarian 確認ダイアログ】



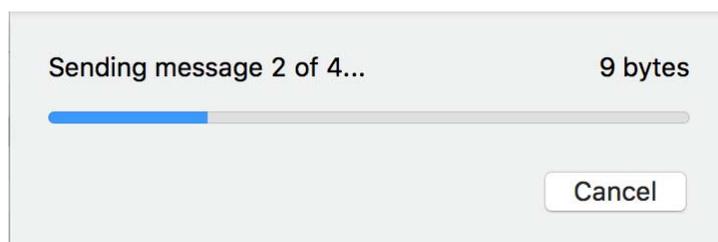
【設定ファイル読み込み完了】

4つのファイル(push_for_****.syx)からいずれか1つのみを選択します(下図では「Mute」を選びました)。なお、各ファイルにはプッシュ機能と合わせ、モニターレベル操作のコマンドが含まれています。



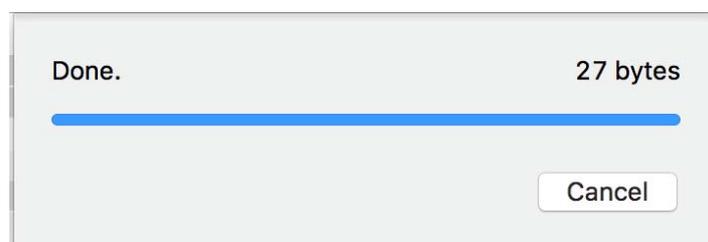
【設定ファイルの選択】

送信するファイルを選んだら、左上の Play ボタンを押して送信を開始します。



【設定ファイル送信中】

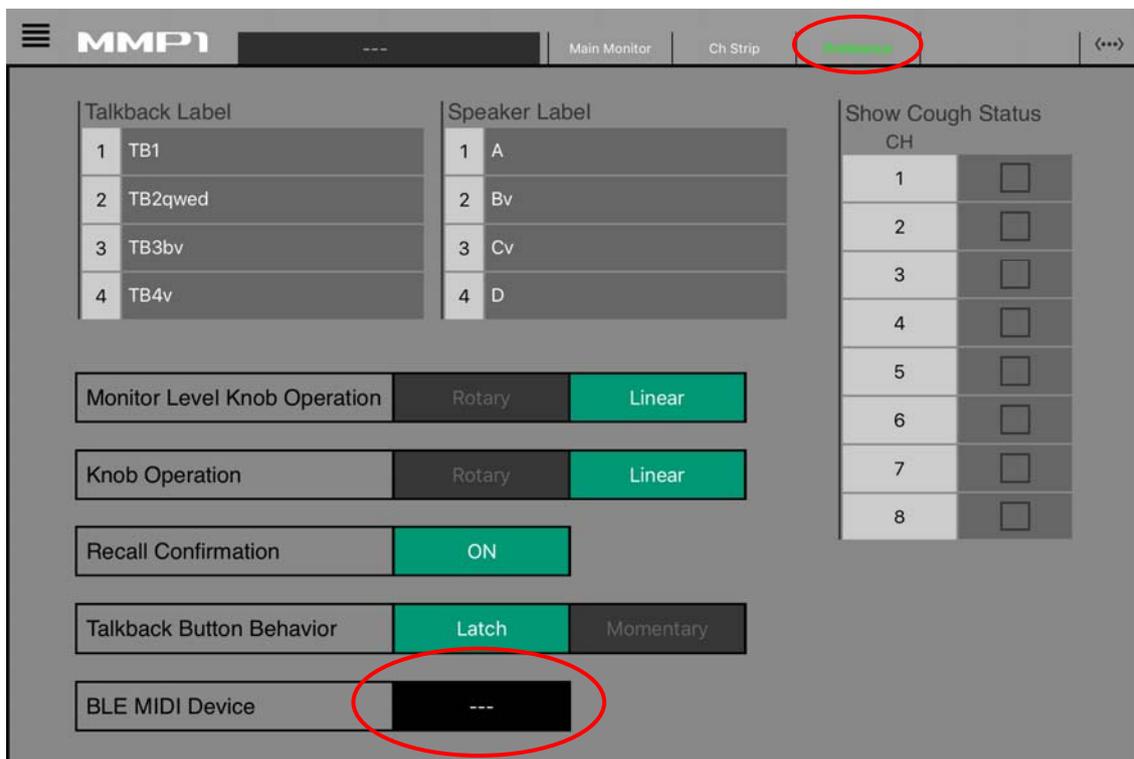
送信中のメッセージが表示されますが、送信は数秒で完了し、完了のメッセージが表示されます。



【設定ファイル送信完了】

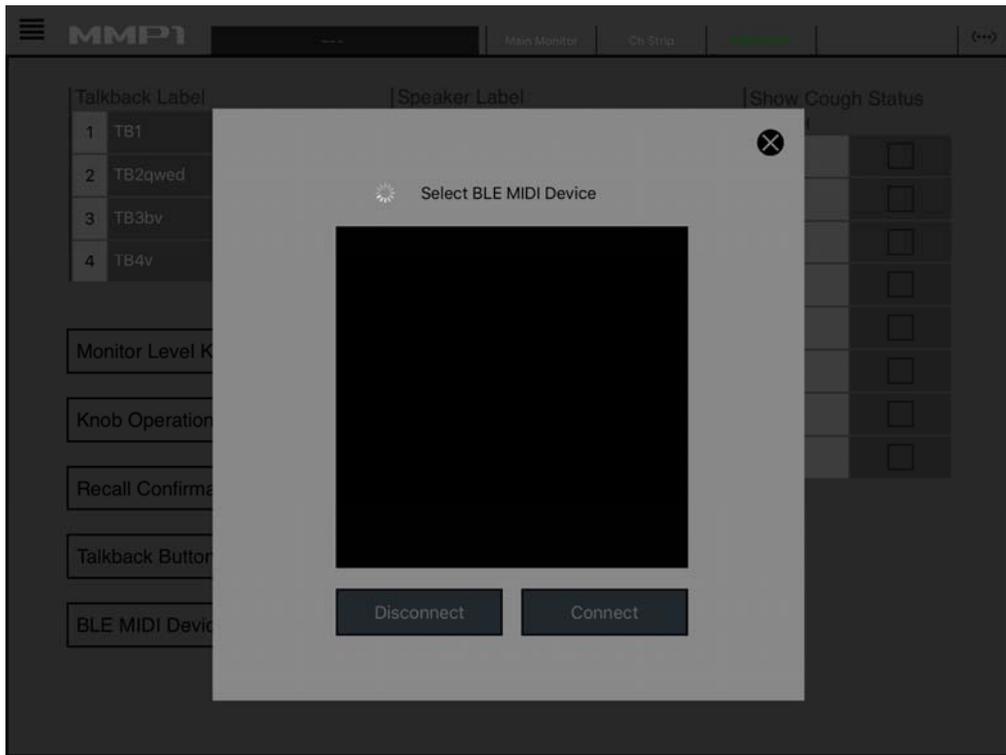
4-5. iPad と ortho remote のペアリング

ortho remote の設定が済んだら、次は iPad と ortho remote をペアリングします。MMP1 Controller を起動し、Editor View 右上の「Preference」タブをタップします。



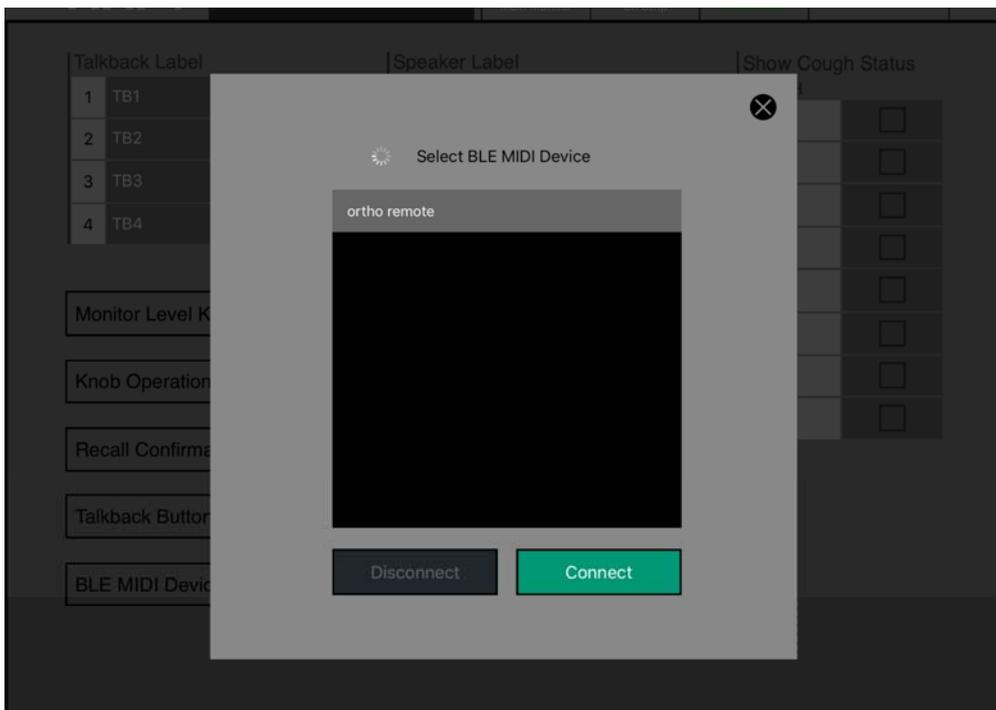
【MMP1 Controller Preference 画面】

次に一番下の「BLE MIDI Device」をタップすると「Select BLE MIDI Device」画面が表示されます。



【BLE MIDI デバイス選択画面】

ここで再度 ortho remote 背面のペアリングボタンを LED が青色に点滅するまで約 3 秒間押し続けます。ortho remote が検出されると画面上に「ortho remote」と表示されます。



「ortho remote」をタップし、下の「Connect」をタップすると以下の確認ダイアログが表示されますので「ペアリング」をタップして iPad と ortho remote をペアリングします。



【MMP1 Controller Bluetooth ペアリングの要求】

設定は以上です

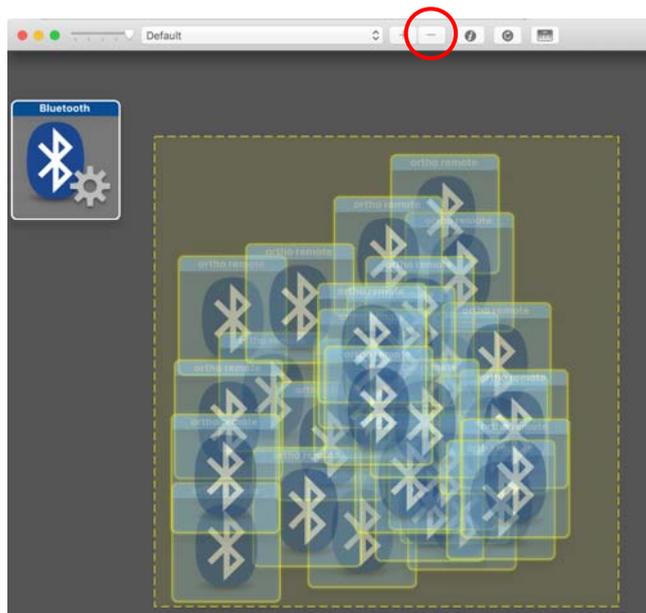
注意： ortho remote のペアリングがうまくいかない場合

ortho remote の接続・切断を繰り返し、「オフライン」のデバイスが多数追加されていくと、上限以上のデバイスが登録できず、ortho remote のペアリングができなくなる場合があります。



【多数の「オフライン」デバイス (Audio/MID 設定 - MIDI スタジオ)】

その場合はホストデバイスから、それらのオフラインデバイスを削除してからペアリングを再度試してください。MIDI スタジオ内のオフラインデバイスのアイコンを、マウスカーソルをドラッグして囲み、「-」ボタンをクリックすると、一度にそれらのオフラインデバイスがクリアされます。同時に登録デバイスリストからも削除されます。



【オフラインデバイスの削除】

次にシステム環境設定から「Bluetooth」を開き、ここからも不要なオフラインデバイスを削除します。



【システム環境設定 - Bluetooth】

デバイスの右側の「X」ボタンをクリックし、確認のメッセージの「削除」をクリックします。





この操作を、全てのオフラインデバイスが削除されるまで続けます。

同様に、iPad でも登録デバイスが上限を超えると、それ以上接続できなくなりますので、不要なオフラインデバイスは全て削除してください。



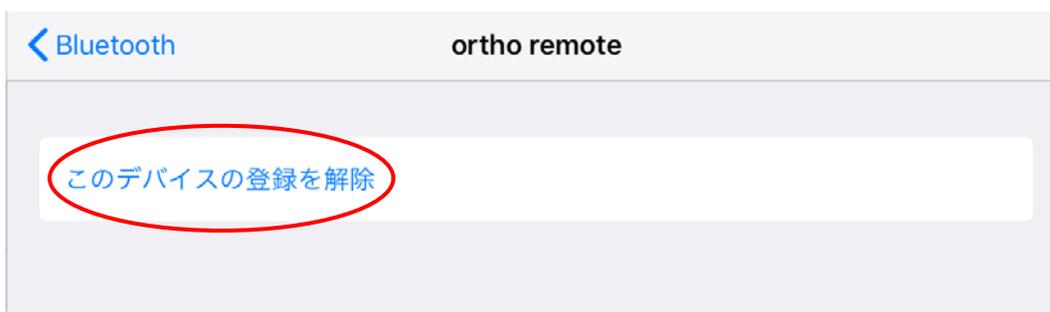
【多数の「オフライン」デバイス（設定- Bluetooth）】

オフラインデバイスを削除するには、デバイス名の右の「i」ボタンをタップします。



【「i」ボタンをタップ】

次の画面に表示される「このデバイスの登録を解除」をタップします。



【登録解除】

確認のダイアログが表示されますので、OK をタップすればデバイスが削除されます。これを登録されているデバイス分、繰り返します。



【確認ダイアログ】

5. 参考: MIDI コマンドリスト

MMP1 の各パラメーター値、及び ortho remote の各機能の操作には、以下の MIDI メッセージを使用します。

チャンネルボイスメッセージ – MMP1 各パラメーター値の read/write

MMP1 の各パラメーター値を変更するには、以下のチャンネルボイスメッセージを使用します。

- ・コントロールチェンジ[B0] – モニターレベル操作[10]
- ・ノートオン[90] – ミュート[00]/DIM[0C]/リファレンスレベル[18]/オールミュートモード[24]
- ・xx は 0 以外の任意の値(コマンド表、設定ファイルでは 100[64])

([]内は 16 進数)

MMP1 function	MIDI message			Notes
	#1	#2	#3	
Monitor level up	B0	10	1	General Purpose Controller #1
Monitor level down	B0	10	127	General Purpose Controller #1
Mute	90	00	xx	Note On / Note:0(C-2) Velocity:Any value expect 0
Dim	90	0C	xx	Note On / Note:0C(C-1) Velocity:Any value expect 0
Ref	90	18	xx	Note On / Note:10(C0) Velocity:Any value expect 0
All Mute mode	90	24	xx	Note On / Note:24(C1) Velocity:Any value expect 0

システムエクスクルーシブメッセージ – ortho remote への各機能のアサイン

ortho remote の各機能をアサインするには、以下のシステムエクスクルーシブメッセージを使用します。

以下のコマンド 1 と 2 はモニターレベルを操作するために必要な MIDI コマンドです。必ず両方のコマンドを送信してください。また、コマンド 3-6 はいずれか 1 つを送信してください。

コマンド 3-6 の機能は MIDI のノートオン情報を送ることで設定されますが、ベロシティの値が 0 だと設定されませんので、必ずコマンド 7 で 0 以外の値(この場合はベロシティ値 100[64])を合わせて送る必要があります。

1. ノブを回した時のメッセージを増減相対値にする(必須)

F0	00	20	76	02	00	02	00	F7
----	----	----	----	----	----	----	----	----

2. ノブを回した時にモニターレベルを操作する(必須)

F0	00	20	76	02	00	01	10	F7
----	----	----	----	----	----	----	----	----

3. 押し込んだ時にミュートする(任意)

F0	00	20	76	02	00	03	00	F7
----	----	----	----	----	----	----	----	----

4. 押し込んだ時に DIM(レベルを一定量減衰)する(任意)

F0	00	20	76	02	00	03	0C	F7
----	----	----	----	----	----	----	----	----

5. 押し込んだ時にリファレンスレベルに変更する(任意)

F0	00	20	76	02	00	03	18	F7
----	----	----	----	----	----	----	----	----

6. 押し込んだ時にオールミュートモードにする(任意)

F0	00	20	76	02	00	03	24	F7
----	----	----	----	----	----	----	----	----

7. ベロシティに 0 以外の値をセット(必須)

F0	00	20	76	02	00	04	64	F7
----	----	----	----	----	----	----	----	----

設定ファイル(ortho_remote_config.zip 内)

設定ファイル1. push_for_mute.syx

F0	00	20	76	02	00	02	00	F7
F0	00	20	76	02	00	01	10	F7
F0	00	20	76	02	00	03	00	F7
F0	00	20	76	02	00	04	64	F7

設定ファイル 2. push_for_dim.syx

F0	00	20	76	02	00	02	00	F7
F0	00	20	76	02	00	01	10	F7
F0	00	20	76	02	00	03	0C	F7
F0	00	20	76	02	00	04	64	F7

設定ファイル 3. push_for_ref_level.syx

F0	00	20	76	02	00	02	00	F7
F0	00	20	76	02	00	01	10	F7
F0	00	20	76	02	00	03	18	F7
F0	00	20	76	02	00	04	64	F7

設定ファイル 4. push_for_all_mute.syx

F0	00	20	76	02	00	02	00	F7
F0	00	20	76	02	00	01	10	F7
F0	00	20	76	02	00	03	24	F7
F0	00	20	76	02	00	04	64	F7

